

学校だより たぐち

佐久市立田口小学校 平成28年 7月6号

一学期が終了します。



一学期が本日、7月26日で終業を迎えました。本当にたくさんの皆様方が、いろいろな面で学校に関わってきていただいたおかげで、今日を迎えることが出来ました。有り難うございました。私たちは子供たちの持っている本人を含め私たちがまだ見知らぬ秘められた可能性を信じ、学校における取り組みを日々積み重ねて参りました。当初思い描いていた状況とは、異なった部分も多々ありますが、何より無事に一学期を終えることが出来ることに、心より感謝申し上げます。充実した夏休みにして、自分を信じて可能性を伸ばす2学期に

したい気持ちでいっぱいです。

休み中の家庭での生活で

学校は休みになりますが、ご家庭の皆さんは休みにはならない事は十分承知した上で、お願いがございます。家庭生活の中で、休み中のすべきことまたは、これだけはしてはならない事など、子供たちとよくよく話し合う機会を設けていただきたいと言うことです。そして、何をするのかあるいはしないのかは、子供たち自身に決定させていただきたいのです。さらに、休みの終了時期には、その決めた事柄について、ご家族で検討会を持っていただき、決めた事への取り組みはどうであったか、出来たとしたらなぜ出来たのか、出来なかったとしたら何が出来なくさせていたのかの検討をお願いしたいのです。



検討会は、子供たちの責任を追究するための会ではありません。むしろ逆に褒めるための会です。決めたって出来ない事があります。出来ていても身に付いていないということだってあります。



反対に、出来なかったことで、自分自身の有り様の至らなさに

注意が向くことだってあるのではないのでしょうか。そうなれば、どのような結果でも褒めたり認めたり、一歩前に進むための勇気づけになるはずです。

短時間で結構です。決める内容は簡単なことで結構です。でも、最後には褒め、認め、励ますような検討会になるようお願いしたいのです。よろしく申し上げます。

終業式の 講話より

<前略>この写真をみてください。何だと思いませんか。そうですね。鳥の巣です。南校舎2階トイレの前に作られていた巣です。ハクセキレイの巣です。そしてこれがハクセキレイです。

ハクセキレイという鳥は、以前は北海道や東北地方に主に生息していました。近年、関東や中部地方にも住むようになってきた鳥です。何を食べているかという昆虫やクモ、ミミズなどをたべます。最近では、パンくずなど人間が残した食べ物を食べる様子が観察されているようです。

本校に巣を作ったハクセキレイも確か 6 コくらいの卵を産んだと思いましたが、いつのまにか大人になり巣立って行きました。大人になり巣立つまでに、13日～16日なのだそうです。巣立った後も、親鳥にえさの捕り方や危険からの身の守り方を教わりながら一人前の大人のハクセキレイになっていくのでしょう。

卵からかえって巣立ちをするまでの親鳥の忙しさと言ったら、大変なものでした。ひっきりなしにえさを捕まえて出かけては、巣に戻ってはえさをやり、雛にえさをやったかと思うとすぐにまたえさを捕まえて行くと言った具合でした。

そうやって何羽かの雛が巣立って行きました。

私たちも同じです。私たちが今日までこうして学校に来ていろいろな事を学習できているのは、本当にいろいろな人のおかげです。毎朝、交差点や横断歩道にでて、見守ってくださっている地域の皆さん、それぞれの家庭



では、皆さんの朝ご飯を用意し、学校に遅れないように送り出してくれていたお家の皆さん、そして学校ではそれぞれの担任の先生が、わかりやすい授業をしようと朝早くから夜遅くまで授業や行事の準備に熱心に取り組んでいただきました。そうした、たくさんの方が私たちを支え応援してくれるので、学校での生活が送れますし、学校に通うことでいろいろな力が身に付いていきます。どうか、そのことを忘れないでください。一学期の自分の姿を振り返りながら、この夏休みを過ごしてください。なんとはなしに過ごしてしまう今日という一日ですが、私たちの誰にとってもたった一回しかない今日という日です。そして、元気いっぱい 2



学期の始業式で会いましょう。

朝、石橋で子供たちの登校を迎えるとき、残念ですが高学年になるほど、挨拶をしてくれない現実があります。それにも増して、気がかりなのは、うつむいたまま過ぎようとする子がいたりすることです。何かあったのだろうか。登校途中でのことかな、など気になって仕方ありません。元気な姿を2学期はたくさんみたいと思います。

オリンピックが教えてくれること：8月6日には、ブラジル、リオデジャネイロを中心にオリンピックが開幕します。オリンピックといえばメダルの数が話題になります。しかし、思ったようには手に入る物ではないと私は思います。その競技に携わる世界中の人々が、選手が、メダルを手に入れようと日々本当に想像も出来ないような努力をしているのです。そんな中で、自分の思ったようなコンディションを保ち、結果を残すことなど極めて困難な事だと思うからです。メダルを手にするには、目標ではあっても競技をする目的ではないと思います。

それは、私たちの日常に似ています。一生懸命に努力をしたつもりでも、それ以上に努力をしている人がいれば、自分が思うような結果は手に入りません。運にも左右されるかもしれません。だからといって、そのことで自分を厳しく責めても手に入る物は少ないでしょう。まして、思うような結果が出ない事を「他者」のせいにしていたのでは、日常の生活は破綻して行きます。結局、結果を含めそれに至るまでの過程の全てを自分自身の事として振り返って考えた時にのみ、自分にとって役立つ物として自分の前に現れてくると考えます。それをオリンピックは、スポーツを通してわかりやすく私たちに見せてくれる場ではないかと思います。ですから、思うような結果が出ずに落胆した選手からの方が、学ぶべき事は多いといえます。オリンピックを観る機会があれば、子供たちには、自分自身の持っている可能性を強く意識して貰いたいと思います。自分が持っている可能性を、日本選手が必死になって演技している姿に重ねてほしいと思います。そして、失敗したりうまくいかなかった選手が、その後どうしているかにも注目してほしいと思うのです。メダルは、オリンピックに出なければ手に入らないものではありません。普通に生活している子供たち全員が、私たちもいずれ誰かにとって「かけがえのない存在」という「メダル」を手にしてほしいと心から願います。